univ. CO-OP

教職員情報

NO.147（225）
2019年3月15日号
京都大学生活協同組合

ホームページアドレス　http://www.s-coop.net

特別号
一路順風

2018.11.3　くすのき秋祭り

定年退職者のみなさまへ贈る言葉

京都大学生活協同組合理事長　若林 靖永

皆様におかれましては、永年にわたる京都大学でのご勤務、大変お疲れ様でございました。また、京都大学生協の運営への多大なるご協力についてありがとうございました。

定年を迎えられるにあたり、一言贈る言葉を述べさせていただきます。

京都大学生協は、食堂や書籍のみならずパソコンなどの勉学研究機器や共済、学生の学びを支援する事業にも力をいれるようになり、学生が参加する企画やイベントも多く取り組まれるようになりました。近年は中央食堂、西部食堂（ルネ）、北部食堂と耐震改修リニューアルと、学生、教職員の食を支える充実した施設改善が実現しました。そして2016年は吉田南の吉田ショップがリニューアルし、その2階に生協本部が移転しました。その後は、桂キャンパスでの事業の見直しに取り組んでいます。また、教職員委員会を通じて、教職員組合員の参加により、教職員組合員のための活動をすすめてきました。これらも、みなさんのご理解、ご協力によるものであり、組合員の組織である生協を支えていただきうれしく思います。また長い間、生協本部が置かれた花谷会館のこれからについても大学と協議しながらメモリアルとして支えていきたいと考えています。

さて、今日「人生100年」と呼ばれる超長寿社会が実現しつつあります。75歳からを「高齢者」と呼称しようという学会の提案もあります。まさにみなさまの人生はこれからです。私は共同研究者と若林靖永・樋口恵子編『2050年　超高齢社会のコミュニティ構想』（岩波書店、2015年）を出版し、昨年、その続編として『2050年　新しい地域社会を創る』（東信堂、2018年）を出版しました。続編では、少子高齢・人口減少社会になってどうしよう?という立場ではなく、私たちが自ら、自分たちの居場所となる「新しい地域社会を創る」「こうした役割の主要な担い手として、地域生協が自らのミッションを再定義して取り組むべき」という提言をまとめました。

皆様がたが、それぞれの地域などで今後とも健康で、ご活躍、ご挑戦していただき、新たな未来を築くことを期待しております。

西部会館ルネ（外線）752-1587（内線）7632
吉田ショップ 753-7633 7633
北部購買 752-1586 7635
南部生協会館 753-7630 7630
時計台生協ショップ・時計台旅行センター 771-6289 7639
宇治生協会館 0774-38-4388 17-4388
桂ショップ 383-7300 15-7300
ブックセンタールネ 771-7336 7631
洋書 751-6183 7631
PCセンタールネ 753-7636 7636
コンベンションサービスセンター 753-7655 7655

インターネットショッピング　http://www.s-coop.net

京大生協組合員として40年余りーお世話になりました

経済学研究科
岡田 知弘

私が京都大学に入学したのは、1973年のこと。それから46年の歳月が流れました。このうち、岐阜の私立大学で働いていた5年を除く41年間、京都大学生協の組合員として、お世話になりました。

部屋の片づけをしていると、学生時代の京大生協組合員証がでてきました（写真）。もちろん紙製で、周囲はボロボロに。私は、最初、文学部に入学し、その後、経済学部に転学部したため、所属欄には「文」というハンコが押してあります。出資金は8口3200円となっています。当時の理事長は、おそらく経済学部の野村秀和先生だったと思います。まさか、その野村先生と学部の同僚になるとは夢にも思っていない頃のものです。本来、学籍が無くなったあとは、返却すべきものですが、そうしないままになっていたようです。

学生時代の京都大学生協組合員証

今回の寄稿依頼を機に、つらつらと学部学生時代、大学院生時代、そして教員になってからの京大生協との関わり合いを思い出してみました。学部学生時代、まだ建て替え前の古い吉田食堂や西部食堂をよく利用しました。当時は紙の食券で、食堂の入り口にある交換所で組合員証を提示して、購入していたように思います。ボロボロになっているのは、使用頻度が高かったからでしょう。当時は、5円、10円、100円といった金券を千切りながら、カウンターにあるご飯、味噌汁、おかず類を順番に取っていくという方法でした。まだ、カフェテリア方式はもちろん、レジの導入もされていない時代でした。

一番よく利用したのは、西部食堂1階にあった（ちょうど今の特設売り場辺り）エスポワールという喫茶店。学部学生時代は、まだ学内が荒れていて、講義が休講になることもしばしばあり、このエスポワールで、朝食や昼食を食べながら小さな勉強会や読書会をしていた記憶があります。まだ1回生の頃、先輩の学部生にロシア語を教えてもらっていたことも思い出します。西部構内には、レコード店もあり、ときどき立ち寄ったりしていました。

また、時計台が改修される前、法経1番という扇型の大教室がありましたが、その地下にあったのが、中央購買部と書籍部でした。ここも、実によく利用しました。とくに大学院生になってからは、書籍サークルの制度があって、研究室単位でサークルを作って、たくさんの本を買ったものです。そのサークル還元金を使って、研究室の湯沸かしや什器を揃えるのも楽しみでした。

当時の中央購買部には、写真屋、薬局、時計屋、クリーニング屋もあり、学生生活のすべてをカバーしていたように思います。スチール本棚などの家具類もありましたね。いつしか生協は、大学で生きていくために無くてはならない必需品となっていました。

ところが、最初に就職した岐阜の私立大学には生協が無く、代わりに民間の書店や食堂がありました。しかし、その品揃えや食事、サービスの質はひどいもので、同じころに就職した若手の教職員はみな、不満を募らせていました。彼ら彼女らの多くも、生協のある大学で学生生活を送っていたのです。

そこで、生協設立運動を始めることにし、岐阜大学生協のサポートを受け、学生と一緒に署名運動を展開しながら、私は事業計画をつくり、シミュレーションするというようなこともやりました。モデルは、もちろん京都大学生協でした。残念ながら、生協の設立を見ないまま、京大に戻ることになりましたが。

私が京都大学に教員として赴任したのは、1990年。バブルの絶頂期でもありましたが、研究手段としてのパソコンが急速に普及していく時代を迎えていました。研究費も、本からパソコン関係品にシフトするようになった時代でした。また、教員になったということで、出張旅費を使うことができるようになり、特急券などの予約、発券業務も生協でできるようになり、とても助かりました。

また、学会を主催する機会も多くなり、生協の学会サポート業務担当者に随分助けていただきました。名簿づくり、印刷·製本、各種案内ポスターや分科会設営の準備、そして生協食堂を使った懇親会など、随分活用させていただきました。学会だけでなく、公共政策大学院や図書館機構の役職をしていたときには、修了式やセミナー終了後の懇親会を、カンフォーラを借りて行ったことも、忘れられない思い出です。

京大最後のゼミ生とともに（2019年1月8日）

90年代末に、京大職員組合の委員長をしていたころ、時計台前で平和盆踊りというイベントをやっていたのですが、その際に、京大生協労組の皆さんにご協力をいただきました。実は、学生時代以来、今まで、私は生協の役員になったことがありません。一方的にお世話になるだけでしたが、職組の役員をしていたころ、一度だけ、生協職員向けの研修会に招いていただき、独立行政法人化後に大学や大学生協はどのようになるのか、生協食堂で講演する機会がありました。そのようなこともあり、各売場の職員の皆さんから、時々声をかけていただくこともあり、私にとっては極めて居心地のいい生協のお店となっています。

学生生活や教職員の仕事内容の変化につれて、生協の扱う商品やサービスも代わってきましたが、そこには生協職員や役員の皆さんの絶え間ない努力があったことと思います。この機会に、深く感謝したいと思います。

京都大学を去るにあたって、組合員証を返上しなければならないのかと寂しく思っていたところ、なんと「退職教職員」として組合員継続ができるとのこと。しかも電子申請で。どこまでも配慮していただき、ありがたいことです。これからも、一組合員として、京大生協を利用させていただきたいと思います。京大生協のさらなる発展を祈っております。

カット：浅野 純子

京大でイスラーム・中東研究に励んだ日々

アジア・アフリカ地域研究研究科 教授
小杉 泰

私が京都大学で教鞭を取るようになったのは、大学院のアジア・アフリカ地域研究研究科ができた1998年のことでした（以下、英語名から略したASAFASという通称を用いる）。その名の通り、アジア・アフリカの諸地域を専門とする研究科ですが、私を呼んでくださった応地利明先生からは「京大には（歴史研究はあるが）現代イスラームの研究がないので、その分野を開拓してください」と言われました。偶然ですが、この年に筑摩書房の《21世紀の国際政治》シリーズで『イスラーム世界』を刊行するところでしたので、これはちょうどよい、現代のイスラーム世界を大学院で研究・教育できる、と喜び勇んでやってきたことを思い出します。

地域研究は、臨地研究（フィールドワーク）を基礎として、研究対象地域の生態・生業、経済などから、文化、社会、政治などを考察します。そのため、地域の言語の習得も欠かせません。イスラーム世界は古典も多く出版も盛んなので、地域言語で書かれた「原典研究」も必須です。私自身の主たる対象地域のアラブ圏ではアラビア語は地域言語ですが、イスラーム世界論の立場からは、アラビア語をイスラーム世界の共通語・国際語としても学べるようにしました（実際のところ、アラビア語は国連公用語の1つにもなっています）。

言語を重視しても読む文献がないと困るので、研究科ができてから5年ほどは文献収集に注力しました。ちょうど東南アジア研究センター（当時）とASAFASで科研費の大型プロジェクトが取れたため、全力をあげて文献収集に励み、短期間で日本一のアラビア語文献コレクションを作ることができました。エジプトなどに出張し、来る日も来る日も書店やその倉庫で選書をしていた頃が懐かしく思い出されます。コレクションの整備には、もちろんチームワークが必要で、同僚の東長靖先生といっしょに多くの人材を結集して、収集と同時に分類、配架に励んでもらいました。すると、私たちがそれらの本を使うよりも早く全国から借り出しの依頼が来るようになり、多くの研究者から喜ばれて本当に嬉しい思いをしました。

その後、世界でも第2位というウルドゥー語（南アジアのイスラーム言語）の文献コレクションを得ることもできました（日本で一番なのは言うまでもありません）。東長先生がリーダーとなって、これも分類、配架を終えています。他の地域を専門とする皆さん（先達の東南アジア研究は言うまでもなく）の貢献もあって、今では、京大では現地で出版された書籍・資料や欧文献を含めて、アジアや中東に関する文献がとても充実しています。何かを調べたいと思った時に、たいていのテーマで探している本の7割方は学内の図書館・図書室で見つかるのは心強いことです。昨今はインターネットが重宝されますが、本がなければわからないことも山のようにあります。

今の時代は大学もどんどん新しいことをやらないといけないので、人間文化研究機構といっしょに「イスラーム地域研究」を実施して、研究科附属イスラーム地域研究センターを設置したり、グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」を共同で実施して、現在のグローバル地域研究専攻を新設したり、マレーシアと共同の研究活動を進めて、研究科附属ハダーリー・イスラーム文明研究センターを設置したりしてきました。このような研究活動をすると、教員だけではなく院生の皆さんも非常に元気になります。

大学院は専門家を養成するところで、ASAFASからは実務系の専門家も輩出しています。とはいえ、「学統」というものがあるので、研究者を育てることは大事な役割となっています。ASAFASは「5年一貫制」の博士課程をうたう新しい大学院だったので、私たちは標準年限（5年）で学位が取れるよう、教員も院生もかなり必死に力を注ぎました。その甲斐もあってか、2014年にはOBの1人が修了後10年で別の大学で教授になることができました。大学院の5年間と合わせて、合計15年で1サイクルが完成した勘定になります。昨今は、博士号を取っても就職できないと思っている学生に時々

出会いますが、戦略さえきちんと立てればそんなことは決してないと、声を大にして言いたい気がします。

京大で20年ほども研究･教育生活をしてきて、課程博士が20人以上、論文博士も6人輩出しました。思い返すと京大で一番よいことは、いわゆる「自由の学風」だと痛感しています。これは現在の京大の「基本理念」では、「研究の自由と自主」「対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養」というような言葉遣いになっています。「対話」も、きわめて大事です。大学院生が研究力を養う助けをずっとしてきたわけですが、その方法はというと「対話」と「討論」ということに尽きます。授業などで知識を伝授することはできますが、考え方まで教えられません。人文･社会科学の分野で思考力を養うとなると、何よりも大事なことは、学生とじっくり話をする、ツッコミ合う、おおいに論じ合う、ということかと思います。

京大に来た当時、「好き･もの」学派と称していたことがあります。これは「好きこそものの上手なれ」の略で、「上手になろうと思うには、まず好きでないといけない」という意味と、その逆の、好きなら「下手の横好き」で終わっても人生に悔いは無いはず、という意味を込めていました。「研究が好き」「研究する自分が好き」「研究対象が好き」の三本柱が「好き･もの」学派の基本です。これは、自由の学風とも通じ合っていると思います。

このたび定年退職の時を迎えましたが、研究そのものに定年がないことは言うまでもありません。最終講義も、回顧風ではなく、「中東･イスラーム世界の激動と眺望――湧き上がる研究課題群を前にして」という題名にしてもらいました。新しい研究課題の多くは若い皆さんの独創性にまかせたいと思いますが、自分自身が関心を持っている主題群とは、さらにつきあっていこうと気を高めています。

京大にはこれからも、自由の学風、知の継承、創造的精神で発展してもらいたいと切に願っています。

カット：浅野 純子

大学、生協そして京都の思い出

情報環境機構IT企画室　教授
斉藤 康己

2013年に着任してから5年と9ヶ月京都大学、そして生協にもお世話になりました。

京都も大学という職場もそれから単身赴任も全てが初めてという新鮮な気持ちで生活を始めました。昔初めて外国へ行った時に何もかもが物珍しいというのに似た感覚でした。
先ずは百万遍の信号機横の表示を見てニンマリ（写真１）。これは「おもろい」所に来たな～というのが第一印象でした。

写真１

京大では情報環境機構でKUINSネットワークの運用やセキュリティ、それにソフトウェアライセンスなどの仕事をさせて頂きました。情報基盤ということで縁の下の力持ちであるべきだったのですが、力不足で技術職員や事務職員、回りの先生方にも助けられてどうにかこうにかやってこられました。無線LANのアクセスポイントを増やせたこと、セキュリティの規程類を大幅に改定してより具体的にしたこと、マイクロソフトとの包括契約などが成果かなと思っています。

写真2

写真3

写真4

落ち着くと生活は至って単純で、住んでいる烏丸丸太町と大学の間の往復で日常は過ぎて行きました。桜の季節と紅葉の頃には家内も東京から来て花見や紅葉狩りも楽しみました。最初の頃は、大学の中を昼休みの散歩代わりに散策し、珍しい場所やものをみつけては楽しんでいました。例えば、理学部の植物園とか総合研究２号館裏手の工学部婦人の部室（写真2）とか、不思議な階段、超芸術トマソンか?（写真3）とか、私が生まれた年の記念植樹（写真4）とか。また、北部食堂への道すがら生まれて初めて美しいハンミョウ（写真5）に出会ったり、大きなカタツムリを見つけたりと小さな発見も楽しみました。

でも、何と言っても一番お世話になったのは生協食堂（最初は中央食堂、後に北部食堂）とルネショップでした。色々な大学の生協食堂を試しましたが、京大の生協食堂は他大学に比べて掛け値なしで美味しいと思います。先生や学生やお客様が入り交じって井戸端会議?ができる場所としても貴重だと思います。あるとき、国際会議に来ていたアメリカの研究者とたまたま同席したのですが、私が「セキュリティを見ている」と言ったら「なんで京大はP2Pを禁止しているのだ!」と噛みつかれて説明に大わらわ。これも楽しい思い出です。昔誰だったかが、東大よりも京大にノーベル賞受賞者が多いのは生協の食事がうまいからだと言ったと聞いたことがあります。確かに。

写真5

また書籍部も良く利用しました。並んでいる本を眺めるのは趣味に近く（本を買わなくても）とても楽しいことなので、充実した書棚はありがたいです。時々の古書店の展示も良かったです。ただオンラインのショップはまだ改良の余地があるのではないかと思いました。アマゾンと比べてはいけないのかもしれませんが、やっぱりアマゾンの方が使いやすいですね。

それから、2016年の秋にGoogleディープマインド社のAlphaGoというとても強い囲碁プログラムの出現を受けて昔の知り合いの編集者からの依頼で初めて新書「アルファ碁はなぜ人間に勝てたのか」を書いたのですが、それが生協の新書コーナーには出現しなかったのはちょっと寂しかったです（笑い）。

生協の皆様には、仕事の上でも大変お世話になりました。マイクロソフトとの包括契約のいわゆる「生協方式」をスタートできたのは正に生協のお陰です。生協が全面的にリスクテイクする決断をしてくれた前専務理事の中森さん、それをそのまま引き継いでくれた現専務理事の中島さん、また店長の小島さん、入江さん、奥田さん、小国さんなど沢山の方々にご協力頂いて、この新しいスキームがうまく回っていることにとても感謝しています。最近はパソコンの使い方教室とか、研究室のLANの設定サポートとか新しいチャレンジもされていて頼もしい限りです。そう言えば、生協も大学に取っては縁の下の力持ちで情報環境機構とは同じ仲間なのだと思います。

大学以外では、京都の町中をただ歩き回るのが好きでした。「ジグザグ歩き」と称して、碁盤の目を右、左、右、左と歩いて行くだけなのですが、小さな通りに必ずと言っていいぐらい面白いお店や古い由緒ある石碑や看板などを発見することができました。ここに信長が急ごしらえで城を建てたのだとか、歴史を身近に感じられるのは京都の最大の魅力です。そして自分が歴史とつながっている「実感」を感じられたのは大きな収穫でした。

住んでいるところの直ぐそばに京都御苑があるので、朝その中を歩いて今出川まで行くのが晴れた日には日課になりました。解放的でゆったりとした景色が四季折々に変化し、さまざまな姿を見せてくれる御苑は大のお気に入りで、ここを歩いていてしばしば良いアイデアが浮かびました。蝉の抜け殻が上の方に沢山何年も付いている榎（写真6）や、私が勝手に名付けた「万歳トリー」（写真7）など毎日「おはよう!」と挨拶していました。
昨年9月の台風では、沢山の木が被害に遭い（写真8）とても悲しかったのですが、今でも剪定などの修復作業が続けられて徐々に整えられつつあります。こうした丁寧なメンテナンス作業を見るのも好きでした。

写真6

写真7

写真8

短いけれども凝縮された5年9ヶ月でした。京大や京都を去るのはとても寂しいのですが、今後も折に触れて再訪したいと願っています。

皆さん、本当にありがとうございました。

京都大学での47年

情報学研究科
佐藤 亨

1972年に学部生として入学以来、京都大学には47年間お世話になってきたことになります。実家が浄土寺という至近距離にあったため、教養部時代は毎日吉田山を越えて、3回生になって工学部の授業を受けるようになってからは今出川通りを歩いて通いました。博士課程で1年間プエルトリコに留学、助手に採用されて4年間信楽MU観測所に勤務、その後1年ほど宇治の勤務という時期がありましたが、昭和の終わりと共に本部構内に戻って、またそれ以来30年間を百万遍界隈で過ごしてきました。学生時代に直接指導を受けた先生が朝型で、毎週朝7時から（今は8時開店のようですが）進々堂でミーティングがあったこともなつかしく想い出されます。

その一方で、研究面では世界中を巡る経験をさせて頂きました。当初の研究テーマが大気レーダーという大規模な装置（アンテナ直径100～300m）を必要とするものであったため、必然的にどこの国でも僻地に設置されることが多く、上記のプエルトリコでは中心都市のサンファンから車で2時間ほどのアレシボ山中の小さな村に下宿を借りて暮らしました。最初の勤務先の信楽では、候補地の選定に始まり、レーダーの設計から建設までに参加させて頂き、最初の職員として施設の運営を担いました。当初は未舗装の林道をオフロード通勤し、立派な食堂があるのですが、机や椅子が納入されていなくて床に座って食事、という時期もありました。

南極大気レーダー建設作業

その後も、インドネシアのスマトラ島に建設された赤道大気レーダー、続いて南極昭和基地に建設されたPANSYレーダー（写真は建設作業の1コマ）と、普通の人生ではおよそ行く機会のない場所に、普通の人生ではまず目にすることのない設備を立ち上げるという、はなはだ珍しい種類の仕事に携わることができました。当時はそう思う余裕もありませんでしたが、今から振り返ると得難い経験であったと思います。

学部では一貫して工学部電気電子工学科に所属してきましたが、1998年に情報学研究科が設立され、大学院の所属はそちらに移行しました。私にとっては異文化といえる情報工学、数理工学、数学、農学といった多様な背景を持つ先生方とおつきあいすることになって、それなりに広い世界と思っていた電気系がいかに狭い井戸の中であったかを痛感しました。昨年12月からは国際高等教育院の仕事を頂き、文系の先生方のご専門もわずかに垣間見ることになって、京都大学の育んできた学問の多彩さに目がくらむ想いをしています。

課外活動としては、一時期仕事で使う文書整形ソフトのTeXにのめりこみ、各種文書のためのマクロ開発を逃避行動にしていました。現理事･副学長の北野先生のご指導で、TeXのフォントデザイン用の言語を使って京大のロゴマークを一緒に作りました。作成した1989年にはまだ大学としての正式なエンブレムがなく、我々の版が結構流通しました（正式版は1990年11月6日制定）。

いくら拡大してもぎざぎざにならない利点があり、今でもエレベータのドアなど学内のあちこちにこの非正規版が残っていて、それを探すのを密かな楽しみにしています。写真は時計台記念館北側の中庭に設置されたものです。大学ホームページなどにある正規版と見比べて頂くと違いがわかると思います。

私生活では、私以上に世界を駆け巡る妻を持って、百万遍界隈に加えて毎週のように東京と往復する生活を送っています。実は南極観測隊に参加したのも、プロジェクトのリーダーである妻が大学の用務で参加できなくなった代役という事情でした。定年退職後は東京に引っ越して専業主夫という計画だったのですが、どうやら当分お預けになりそうです。

定年を迎えられる教職員組合員の皆様へ

京都大学生活協同組合専務理事　中島　達弥

2019年春に定年退職を迎えられる教職員組合員の皆様、長きにわたる京都大学でのお勤めお疲れ様でした。長らく京大生協をご利用いただき、また、生協の運営にご理解･ご協力を頂戴しましたことに心から感謝申し上げます。

いよいよ今年京大生協は創立70周年を迎えます。京大生協は1949年5月25日に戦後3つあった京大の福利厚生組織（大学職員厚生会、職員組合厚生部、学生協同組合）が一つとなって誕生しました。その誕生の経緯からもお判りいただけるように、学生だけでなく教員･大学職員の皆さんの強い思いで誕生したのが京大生協です。

いま、大学は18歳人口の減少、国立大学法人の諸改革（京都大学は指定国立大学法人）、大学運営予算の削減、事務機構の見直しなど、目まぐるしい変化の只中にあります。京都大学生協70年の歴史の中で見れば、教員･職員の皆さんがものすごく忙しくなっている局面なのかもしれません。そのような中であるからこそ、生協は原点に戻って、大学という場での「人と人とのつながり」を大切に、憩い･コミュニケーションの場としての機能を一層強めないといけないのだと思います。これまで「どこまでそうなれていたか」は自信がありませんが、大切にしたいことは、諸事多忙な教職員の皆様に役立つ=いらいらしない「ほっとする」「気持ちが和む」そんな生協でありたいと思います。教職員の皆さんにとって、なんとなく取っつきやすい、いろいろ関わるきっかけのある生協になれるよう、奮闘してまいる所存です。

あらためまして、これまでのご利用に感謝申し上げます。ご自愛いただき、ますます健康にご活躍され増すことをご祈念申し上げます。

ありがとうございました。

カット：浅野 純子

ホワイトナイルの誕生

農学研究科　教授
平井 伸博

2005年の春、国際融合創造センター同僚の澤田芳郎教授から、「尾池和夫総長から古代エジプトビールの販売に関して松重和美副学長を通じて指示があったのでよろしく」。聞くと、大手ビールK社が古代エジプトビールを再現した、そのビール製造に使われた超貴重な古代種エンマー小麦が京大農学部から提供されている、その古代エジプトビールを経営が危ぶまれている京大会館レストランで提供すれば売上げが伸ばせるんじゃないかという、総長のアイデアだった。

早速、澤田先生がK社広報に尋ねたところによると、河原太八農学部准教授から提供された数粒のエンマー小麦種子を増やし、吉村作治早稲田大学教授の指導のもと古代エジプトビールを忠実に再現してみたが、それはとても現代人の口には合わない、販売すれば小ビン1本8万円、この事業はK社の百周年事業のひとつであり販売は一切考えていないとか。これだけ否定的な情報があれば総長も諦めるだろうと思いつつ、松重先生に相談に行くと、「そうですか。何かよい方法はありませんか」と優しく諭され、いよいよ苦難の道が…と思っていたら、澤田先生と私は不思議な縁に導かれてトントン拍子に京大ビール企画が進んだ。

エンマー小麦を提供した河原先生の研究室は木原均先生の後継研究室であり、世界で2カ所しかない小麦のジーンバンクとして約1万系統の小麦を更新保存していた。エンマー小麦は約4千年前の古代エジプトで栽培されていた栽培二粒系小麦であり、パスタに使われるデュラム小麦はそれから派生した系統とのこと。同研究室で保存しているエンマー小麦は、山下孝介農学部教授を隊長とする大サハラ学術探検隊の当時農学研究科大学院生だった福井勝義人間･環境学研究科教授が1967年にエチオピアで採取したことも判明した（写真1）。実は福井先生は私と同じ研究室の3年先輩の福井正子さんのご主人でもあり、彼女の卒論テーマはエチオピアの有用植物誌だった。

写真1　エンマー小麦を採取する福井勝義氏
（エチオピア･エントト山付近、1967年12月、阪本寧男氏撮影）

私の食品工学科の先輩でビールの多飲量特性の研究をしていた伏木亨農学部教授に、エンマー小麦を使ってどんなビールを作ればよいか相談したところ、大麦麦芽をベースとしてそれに小麦種子をミックスした新しいタイプの上面発酵ビールを提案された。ただし、いくら法人化したとはいえ大学でビールを製造できる訳がない。京都で地ビールを一番多くつくっているところを調べてみたら、それは黄桜酒造だった。同社の若井芳則専務は私の同級生。早速企画を持ちかけたら、快諾してくれた。このときほど同じ釜の飯の絆を感じたことはない。

しかし、ビールを試作しようにもエンマー小麦がない。矢澤進農学研究科長を通して附属農場での栽培をお願いしたところ、当時高槻市にあった農学部附属農場の山田利昭農場長が種子生産を快諾してくれた。さすがは附属農場、2006年初夏、古代エジプトの小麦が見事に実り100kgの種子を収穫した。さらにその種子を鳥取県の田中農場に依頼して大量に栽培し、翌年ビール製造用のエンマー小麦を収穫した。エンマー小麦を栽培しているあいだ、デュラム小麦をつかって黄桜がビールの試作に入った。問題はデュラム小麦の添加量だった。企画メンバーに加えて学生や教職員の方々にも試飲していただき、伏木先生による多飲量特性の分析結果も考慮して、最終的に添加量20%に落ち着いた。その味わいは地ビール独特の香りと旨味を感じるものだった。

ビールの商品名は、エジプトに多大な恵みを与えてきた大河にちなんで、吉村先生がホワイトナイルと命名された。ラベルには古代エジプトのシンボル·ウジャトの眼を採用した（写真2）。早稲田大学にも参画をお願いし、ここに国立大学、私立大学、民間企業の3組織による初めての産学共同商品が実現することになった。問題はその売上げの一部を両大学に還元する仕組みである。これも私の後輩、産官学連携本部知財部門·藤森賢也氏の尽力で、栽培二粒系小麦をつかったビール製造法を特許として出願し、ライセンス実施料の形で大学に還元してもらう仕組みが完成した。発売以来10年を経てすでに特許の権利化に要した費用の償還も終わり、現在はわずかながら両大学の収入となっている。

写真2　ナイルシリーズ飲料
（左からホワイトナイル、ブルーナイル、
ルビーナイル、サイファーナイル）

2006年4月10日、早稲田大学の白井克彦総長にもお越しいただき本学でホワイトナイルの記者発表（写真3）を行った。その様子はテレビを始めとして多くのメディアで取り上げられ、翌日から注文が殺到して、あっという間に在庫切れしてしまった。このときほど両大学のブランド力を感じたことはない。ただしホワイトナイルが古代エジプトビールの再現という誤解も多く、しばらくは誤解を解くのに懸命だった。

写真3　ホワイトナイル記者発表
（2006年4月10日於本学本部棟、
左から3人目が尾池京都大学総長、その右が白井早稲田大学総長）

その翌年、エンマー小麦を使ったホワイトナイルにリニューアルし、これで一段落と思っていたら、次は地中海文化と京都文化の融合ビールというアイデアが生まれ、伏木先生の提案でコリアンダー種子とゆず皮を加えた地ビールを作ることになり、和食に合う爽やかな風味のビールが完成した。名称は言うまでもなくブルーナイル、ウジャトの眼をホワイトナイルとは左右対称にした。これで終わりと思っていたら、河原先生がピラミダーレ小麦という幻の小麦がありますという。その名前に魅入られて作ったのが、焙煎麦芽とピラミダーレ小麦を使った赤銅色のハイアルコールビール。商品名は、ホワイト、ブルーときたらレッド?あんまりなと自虐していたら、ある女性秘書がルビーナイルを提案してくれた。2008年発売のこのビールはスイーツにもよく合う。いよいよこれで最後と思っていたら、ナイルという名前を冠しているのに、エジプトはイスラム圏でアルコールが飲めない、ノンアルコール飲料を作れとのご託宣が。商品名をアラビア語でゼロを意味するサイファーナイルとして2010年に発売したが満足できるものではなく、松本紘総長からは直裁に「まずい」。発売後も試行錯誤を重ね、ようやくノンアルコールビールとして満足できる品質に仕上がった。その後思いもかけず、ブルーナイルがアジアビアカップ2013で銅賞を、同年ルビーナイルがインターナショナルビアコンテストで銅賞を受賞した。

昨年9月末までにナイルシリーズ飲料は4品合計で60万本以上売り上げた。これまでほとんどの企画メンバーが異動や退職で京大から離れた。私もこの3月で京都大学を去るにあたり、この企画に賛同し協力していただいた方々およびナイルシリーズ飲料のファンに、澤田先生ともども心より感謝したい。京都大学生協には企画の最初から相談にのっていただいた上、ナイルシリーズ飲料の販売で今もこの企画を支えていただいている。心からお礼申し上げる。そして最後に、まるでドラマのような面白い経験をさせてくれたエンマー小麦に感謝。野生エンマー小麦の標本は本学総合博物館に展示されている。これを機に、小麦という栽培植物の進化に興味を持っていただければ望外の喜びである。

注）所属や肩書きはすべて当時のものです。

生協の思い出は食堂だけ?

大学院人間・環境学研究科 講師（留学生担当）
藤田 糸子

私は1972年に京都大学文学部に入学しましたが、学生時代の印象と言えば、荒れたキャンパスで落ち着かない4年間を過ごしたということに尽きるでしょう。もちろん、大学紛争のせいです。

まず、いきなり入学式で「メット」のお兄さん達が乱入してきて壇上を占拠し、「エラい所に来たものだ」と思ったのですが、それは、落ち着かない4年間の序章に過ぎませんでした。その後、「竹本処分反対闘争」、「授業料値上げ反対闘争」、文学部の「R子さん問題闘争」等々、火種は尽きることなく、授業妨害、無期限スト、建物の占拠、団交、学生と機動隊の衝突等の日々が続きました。

そのような毎日の中、生協の思い出と言えば、吉田食堂と中央食堂、西部食堂、そして喫茶「エスポワール」です。食べることだけ?と思われそうでお恥ずかしい限りですが、実はこれには理由があります。

まず吉田食堂と中央食堂から。お昼は大体お弁当を持って行ったのですが、お弁当が無い日は吉田食堂（1，2回生）か中央食堂（3，4回生）で食べました。そこで強烈に記憶に残っているのが油の嗅いです。学食に定番のフライ物やカレーなど油の嗅いが食堂に充満していて、さらに梅雨の日などは、湿気と若い男子学生の体臭とが相まって、一層強烈な嗅いに圧倒されました。そういう時代だったんだと思えば、今では懐かしい思い出です。

2つ目は西部食堂。私は大学入学時から、卒業したら米国に留学すると決めていて、そのために1回生の時から週に1，2回、四条烏丸の近くの英会話学校に通っていました。レッスンがある日は夜遅くなるので、西部食堂で軽く食べてから出掛けました。普段は余り利用しない西部食堂は吉田食堂や中央食堂より若干開放的な感じがして、その少し軽めの空気の嗅いを感じると、今日のレッスンも頑張ろうというスイッチが入ったものです。

そして最後は喫茶「エスポワール」。当時はストや先生の都合で休講になるのは当たり前。休講になると学生は下宿に帰ったり雀荘や茶店（さてん）に入り浸ったりするのですが、私もたまに吉田食堂の2階にあった喫茶「エスポワール」で友人とダベることがありました。まだみんなが煙草をスパスパ吸っていた時代で、「エスポワール」も煙草の煙と嗅いでいつもどんよりとした空気が漂っていました。私は煙草が嫌いだったのですが、避けようもなく我慢するしかありません。しかし、喫茶店などほとんど行かなかった私でも、エスポワールで過ごした時間により、少し大人に近付いたのかもしれません。

以上のように、私の生協の思い出はすべて食堂、と言うより食堂の嗅いと強く結び付いています。嗅覚は記憶や感情を呼び起こすトリガーになりやすいと言われていますので、不思議な話ではないでしょう。生協の書籍部や購買部にも随分お世話になったはずなのですが、嗅いの記憶と結び付いていないので、食堂に比べて印象が薄いという訳です。

1976年3月卒業式の後、文学部の前で（左から2人目が私）

お断り: 写っている皆さんには掲載のお断りをしておりませんが、
43年前の写真ということでご容赦願いたく思います。（藤田）

さて、京大卒業後は初志貫徹、米国の大学の修士課程に留学し、修了後は帰国して企業に就職したのですが、たまたまご縁があり、卒業後四半世紀を経て、1999年に京都大学に教員として戻って来ました。

戻って来た京大は、私の学生時代とは見紛うほど小綺麗になっていました。構内は整備され、新しい建物が立ち並び、小洒落たカフェなどもできています。もっとも、そこここにタテカンが立っていたり、ビラが貼ってあったり、学生がヤジ演説をしていたり、吉田寮を巡ってもめていたりするのを見ると、やはり古巣に戻ったように思えて少し嬉しくなりました。

吉田食堂、中央食堂、西部食堂は、改築されたとは言え、今も学生の食生活の中心として活躍し続けています。メニューは圧倒的に豊富になりましたし、最近ではキャンパスの国際化を反映して、ベジタリアン用のメニューやハラールのメニューも増えています。生協の食堂はこれからも大いに京大生を健康面からサポートしていくことでしょう。

ところで、今の学生が社会人になって京大を思い出す時、生協食堂と言って思い出すのはどのような嗅いなのでしょうか、少々気になるところです。

一路順風

京大生協教職員委員会委員長　今山　稲子

毎年、京大生協若林理事長の「人生100年」の超長寿社会というお言葉に、従来ひと一人一回分の人生であったものが、二回、いや三回分くらいの異なる人生のチャンスがあるのではないかと妙に前向きに考えるようになってしまいました。そう思いますと「定年退職」という言葉の代わりにもっと適した表現があるはず。ともあれ、皆様の新しい旅立ちに一路順風をお祈り申し上げます。

今回は『教職員情報』の取材で、愛知県犬山市にある霊長類研究所図書室を訪問させていただきました。霊長研の図書室は私の職務にとっても、非常に関係の深い、長いおつきあいのある大切な図書室です。ゆるやかな坂道を登るとやがて霊長研の門が見えてきます。春夏秋冬、この坂道を幾人の研究者が歩んできたことでしょう。感慨深いものがありました。

この季節は長く親しみ、思い出を積み重ねてきた人々を送り出し、お迎えする、寂しくもまた嬉しくもある時期です。大学での性とは雖もけして慣れるものものでもありません。皆様の前途に、幸多かれとお祝いの言葉をお贈りいたします。

Jun.

カット：浅野 純子

次代を担う若手研究者紹介シリーズ　VOL.4

分野を、国境を超えて、大自然の摂理を解明したい

京都大学生態学研究センター　特定准教授　宇野 裕美

小さい頃から淡水魚が大好き

あれもやりたい、これもやりたい、あれも知りたい、これも知りたい。魚とりにサッカーに走り回り、公園で変な生き物を見つけては「これは何?」と大人たちに聞き、満足な答えが得られなければいつも図書館に調べに行っていました。皆とはしゃぐのが大好きで、運動会文化祭というと人一倍張り切って、イベントの続く二学期秋学期の成績はいつも少し悪かったのを覚えています。その頃から淡水魚が大好きで、文化祭では水槽をたくさん並べて川でとってきた淡水魚を展示して見学に来てくれた人に淡水魚の魅力について一日中語り尽くしていました。大学への進路を決めるときには、本を読んで聞き知った『生態学』という自然を大きなスケールで理解する学問分野に惹かれて、その研究が盛んな京都大学理学部に進学を決めました。

素敵な人々との出会い

京大理学部というと、世間一般には変人・世捨て人のあつまりといった印象が強く持たれているようですが、私はそこで、砂漠に・熱帯雨林に大自然を理解するために世界中を奔走するとてつもない熱意と行動力を持った素敵な人々に出会い、刺激を受けました。私自身卒業研究と大学院修士では京都大学生態学研究センターに所属し、マレーシアの川で水生昆虫を研究させていただき、また香港大学に半年間交換留学で滞在してそれらの水生昆虫を同定しました。それらの経験を通じてアジアの文化や環境の面白さに惹かれるとともに、欧米や新大陸に比べてアジアの自然についての研究が少ないことを知り、その必要性を強く感じました。その一方で、自分自身が研究の発展に貢献するためには、まずは自分がもっと深く河川そのものについて理解し、研究を深めなければならないと感じるようになり、大学院博士課程では河川生態学が盛んなアメリカのカリフォルニア大学バークレー校に留学しました。

カリフォルニア大学バークレー校で

5年余り過ごしたカリフォルニア大学バークレー校は、色々なことに興味があり、色々なことに挑戦したい私には、とても刺激的な環境でした。研究者が皆とても社交的で、授業でも昼休みでも廊下でも、人が二人よればすぐに研究のアイディアで盛り上がり、異分野の研究者どうしがどんどん新しいアイディアで共同研究をしていく。もちろんその殆どが失敗に終わるのですが、めげずにまたすぐに別のアイディアを試す。大学院生も授業を担当するので院生と学部生の交流も盛んで、私も大学院生として、常に学部生を従えてフィールドに行っていました。大学のシステムとしてもそれぞれの研究者の信条としても人の交流を大切にした、研究・教育ともに素晴らしい環境だったと思います。

皆との交流を大切にしたイベントの開催へ

そして、私は2年前に京都大学生態学研究センターに教員として戻ってきました。アメリカで学んできたことを活かして、今度こそアジアの河川をしっかり研究しようと意気込んでいます。京都大学にはとても多くの自然科学者がおり、それぞれが素晴らしい研究をしています。ただ、私が現在所属する生態学研究センターを含め、京都大学は日本各地に研究施設が散らばっており、なかなか大学内でも交流が少ないのがとてももったいないなぁと感じていました。特に大学院から京都大学に来て、いきなり遠隔地の研究所所属の大学院生は全く他のキャンパスの研究者との交流がありません。もったいない!寂しい!そこでその思いを京都大学の他の若手教員にも話しした ところ、吉田キャンパスにいる研究者でさえが、研究室間の交流の少なさをつまらなく感じているとのこと。そこで今回の（右ページ）マクロ生物学百花繚乱の企画が持ち上がりました。このようなイベントを通じて、より風通しの良い活発な議論・共同研究が京都大学にも沸き起こることを楽しみにしています。さぁみなさん、一緒にワクワク研究しましょう!

京都大学生態学研究センター 主催

マクロ生物学百花繚乱 ～ アジアの生物多様性 ～

2 月 21 日（シンポジウム @ 時計台）2 月 22 日（ドローン講習会 @ 生態研）

教職員情報 No.146 においてご案内した本学全学経費イベント「マクロ生物学百花繚乱」。お陰様で、予定していた二日間を盛況のうちに終えることが出来ました。

基調講演の様子 ▶
（2/21 @ 時計台）

21 日に時計台で開催されたシンポジウムでは、
中野 伸一 教授（京大生態研 センター長）のご挨拶の後、
Ferry Silk 准教授（ブルネイ・ダルサラーム大学）
工藤　洋 教授（京大生態研）
David Dudgeon 教授（香港大学）
湯本 貴和 教授（京都大学霊長類研究所 所長）
の基調講演、更にマクロ生物学の様々な分野で活躍する 5 名の研究者の講演が行われ、濃密な時間が過ぎていきました。

参加者勢揃いの集合写真（2/21 @ 時計台）

幸島 司郎 教授（京都大学野生動物研究センター）の乾杯のご発声で幕を開けた 18:00 からのポスターセッションでは、軽食やビールを楽しみながら、知的交流、更には共同研究の話が進みました。1 日目のシンポジウムには実行委員会の予想を上回る 157 名がご参加くださいました。

ポスターセッションの様子（2/21 @ 時計台）

◀ ドローン研究講演の様子
（2/22 @ 生態研）

打って変わって、22 日は大津の生態研でドローンを使ったマクロ生物学研究の講演と、実際にドローンを使った講習会を行いました。

午前中は、様々な研究事例についての紹介を兼ねた 6 名の研究者・技術者による講演会。幸いなことに天候にも恵まれた午後の講習会では、ドローン初心者から熟練ユーザーまで 61 名が交流しながら、実際にドローンを操作し、そして撮影画像を確認しました。

ドローンを活用したマクロ生物学研究の未来に心躍らせる、刺激的な会となりました。

ドローン講習会の様子 ▶
屋根付近の白色がドローン
（2/22 @ 生態研）

「**マクロ生物学者が集まってなんかおもろいこと考えましょう**」という目標は達成されたと思います。皆様に御礼申し上げるとともに、次回も何とぞよろしくお願いいたします！

花山天文台の今・これから…

Vol. 7

2019年 6/2 午後 日

「花山天文台創立90周年記念講演会」を開催します。 場所 京大イノベーション棟ホール

花山天文台長　柴田一成

花山天文台は、本年創設90年を迎えました

花山天文台は1929年に開設され、今年で90年になりました。厳しい運営状況に変わりはありませんが、6月2日に「花山天文台創立90周年記念講演会」を開催することになりました。

京大岡山天文台が、完成しました

2018年8月17日に、岡山県南西部の浅口市と矢掛町にまたがる竹林寺山系に、京都大学が持つ、花山天文台、飛騨天文台に続く3つ目の天文台として京大岡山天文台が完成しました。口径3.8m、18枚の分割鏡を持つアジア最大の望遠鏡です。愛称は「せいめい望遠鏡」（平安時代の卓越した陰陽師・天文博士の安倍晴明は、岡山天文台の近くにある安倍山でも観測をしたと伝えられます）と名付けられました。また、「せいめい」は、太陽系外惑星の観測から、宇宙における生命発見のさきがけとなる、という意味も込められています。

支援者からうれしい資金援助

花山天文台は、長きにわたり、京都大学の学生の研究の場としてだけでなく、広く京都市民にひらかれた天文台としての役割を担ってきています。が、近年の資金削減や、岡山天文台にかかる費用の捻出で厳しい運営を迫られています。

そうした状況の中で、花山天文台の存続を願う方から、大きなご支援をいただける事になりました。この資金で、「花山宇宙文化財団」の設立を予定しており、この間の活動を基に、花山天文台が京大の宝、京都の宝、日本の宝として広く認知していただけるように輪を広げていこうとしています。

花山天文台の運営にご協力をお願いいたします

「京都花山天文台の将来を考える会　会報」も第3号となり、一般会員、賛助会員の輪も広がっています。
ぜひ、会員になっていただき、花山天文台の運営にご協力ください。
入会方法は、ホームページ（http://kwasan.kyoto）からネットでお申し込みいただくか、
郵送でのお申込みができます。詳しくは、ホームページか、Eメール:info@kwasan.kyotoでご確認ください。
入会費用は会費は年1口3,000円（一般）、1口30,000円（賛助）です。
会員になっていただきますと「基金観望会」などに割引料金で参加できます。
また、天文台基金（1口10,000円、ただし1000円から受付します）にもご協力お願いします。

イベント案内

2019年度　金曜天文講話

場所 キャンパスプラザ京都　時間 18時30分～20時

第1回 5月10日(金)「太陽フレアと宇宙天気予報」柴田一成

第2回 5月24日(金)「複雑な宇宙～カオス・フラクタル・べき分布」

第3回 6月7日(金)「太陽系探査の過去・現在・未来」

※前期は第8回まで、後期は第9回から第16回まであります。

2019年度　天文台基金観望会

場所 花山天文台

時間 19時～（内容は、観望・ミニ講演会・茶話会）

第29回 5月13日(月) 月の観察
※申し込み締め切り　4月26日（金）

第30回 6月11日(火) 月の観察
※申し込み締め切り　5月31日（金）

朝日カルチャーセンターでも4月～6月講座を行います。毎年恒例の花山天文台での「野外コンサート-喜多郎ライブ」は、10月5日（土）です。
ぜひ、お越しください。

救命救急・ＡＥＤ講習会を行いました。

馬場正昭（理学研究科、京大生協教職員委員）

12月20日、京大生協教職員委員会主催の救命救急･AED講習会を吉田泉殿で行いました。今回は、医学部人間健康科学系専攻の西山研究室のゼミ生の皆さんにインストラクターを務めてもらいました。若さと優しさとチームワークがとても印象的で、15名の参加者とサポーターが一体となって、楽しく充実した講習会になりました。

いつもは教職員が教える側で、学生が学ぶ側なのですが、この講習を受けたのは京大で働いておられる職員の方々、インストラクターは看護師を目指して頑張っている学生の皆さん。立場は違っても命を大切に守っていかなければならないのは同じです。まずは突然の心停止とはどういうものなのかを知り、次に胸骨圧迫とAEDの使い方を実習するという45分のプログラムなのですが、みんなで協力しながら救命活動のスキルを学ぶとともに、自分の命、ひとの命について考えてもらうことも大事なのかなと思っていて、これからも機会あるごとに講習会を開いていきます。

京大で救急救命･AED講習プロジェクトチームができてから今年で5年目。京大生協の皆さんの協力を得て、今年度は生協の全ての店長さん、職員の方にもこの講習をを受けていただき活動の輪が少しずつ広がっていることを実感しています。2015年から4月の新入生ガイダンスで3000人に新入生全員にこの講習会を行っており、学部生全員が受講したことになります。これからは京大の中だけでなく、全国あるいは世界に向けて、我々の思いを発信していきたいと思っています。今回インストラクターを務めてくれた学生さんたちはこの3月にそれぞれの新天地に羽ばたいていき、そこでまたこの活動の輪を広げていってくれることでしょう。そして、参加して頂いた方々の笑顔にも心が和みました。講習会のお世話をして頂いた方にも心から拍手です。ありがとうございました。

京大俳句会

「京大俳句会」句会（優秀句）

第118回 (2018.12.15)　いきいき市民活動センター

汗まみれ赤カブに乗るサンタさん	マーティン
行く年を靴音軽き少女かな	まめ
一群に百の黙あり浮寝鳥	つよし

第119回 (2019.1.26)　いきいき市民活動センター

雪催ひ天鈿女の沓の音	夜汽車
一滴の音透き徹る寒の水	つよし
寒稽古見送りしあと皿の白	団子蟲

第120回 (2019.2.16)　京大時計台記念館

ひきこもる室のなければ春の波	吟
荒くれの去りし大学椿散る	楽蜂
オパールの遊色映す鎖骨かな	団子蟲

「京大俳句会」句会のご案内

第109回句会のご案内

日　時：2019年3月23日(土) 13:00～16:30
場　所：京都市左京西部いきいき市民活動センター
☎ 075-791-1836
〈 現地集合 〉
参加費：￥500　句会後に懇親会有り

※俳句は有季定型・無季定型・自由律と形式は問いません。
※3句を用意してください。欠席投句は1句です。
※参加希望者は2日前までに下記に連絡してください。

京大俳句会
夜汽車　（携帯）090-2040-4123
宮本武史（メール）mytanbi@leto.eonet.ne.jp
まめ　（メール）cupid.and.psyche@docomo.ne.jp

■京大俳句会よりお知らせ■

俳句会の会報「自由船」復刊第2号出来ました。
ご希望の方は、生物科学図書室もしくは
メールアドレス
mytanbi@leto.eonet.ne.jp（宮本）
までお問い合わせください。

無料配布中です

121回以降の詳細は「京大俳句会 自由船」のブログ
http://blog.goo.ne.jp/jiyuu-sen　をご覧ください。

NPO法人科学カフェ京都　定例会のお知らせ

第161回
日　時：4月13日(土) 午後2時～4時30分
話　題：まぼろしの巨塔を巡る思索
　　－ 法勝寺八角九重塔と相国寺七重塔の意味
提　供：富島 義幸（京都大学工学研究科 准教授）
会　場：京都大学 理学研究科セミナーハウス

第162回
日　時：6月8日(土) 午後2時～4時30分
話　題：チェルノブイリとフクシマ
　　－ 核災害で国や国際社会はどう動いたのか
提　供：木村 真三（獨協医科大学国際疫学研究室福島分室長）
会　場：京都大学 理学研究科セミナーハウス

第161回
日　時：5月11日(土) 午後2時～4時30分
話　題：日本列島における同一植物種の地理構造
提　供：瀬戸口 浩彰（京都大学 大学院地球環境学教授）
会　場：京都大学 理学研究科セミナーハウス

どなたでもご自由に参加歓迎、
無料、申し込み不要です。
みなさんお待ちしています！！

NPO法人科学カフェ京都　代表者：糸岡 晃　http://cs-kyoto.net/
学内問い合わせ先：栗田光樹夫、宇宙物理学教室：mikio@kusastro.kyoto-u.ac.jp

生協からのご案内

**京大生協への
ご加入はお済みですか?**

学内に日常的に通勤される常勤・非常勤職員の方はもちろんのこと、共同研究等で定期的に来学される他大学や民間企業の方でもご加入いただけます。

生協加入のメリット

1 書籍、CD/DVDは 10%OFF

2 職員証を使って 生協電子マネー（プリペイド）が使用可能。

3 利用に応じたポイント還元!
貯まったポイントは
1ポイント=1円として使用できます!

univ. CO-OP

編集後記

今年も6名の方々にご協力をいただき、「教職員情報特別号」を発行する事ができました。お忙しい中、ご寄稿いただきましたこと誠にありがとうございました。また、京都大学ご在職中の京大生協へのご支持、ご支援ありがとうございました。これからもどうかよろしくお願いいたします。

「平成」が終わり、新たな年号がはじまります。4月以降の新たなスタートが皆様にとって豊かなものになりますことを祈念いたします。

（吉川美重子）

霊長類研究所図書室

図書室から望む犬山城

霊長類研究所図書室は愛知県犬山市にあります。霊長類学と縁の深いこの地に、1967年、霊長類研究所が設立され、図書室は翌1968年に本棟5階に開室しました。1977年に本棟3階に移転し現在に至っています。図書室西側からは国宝犬山城を見ることができます。

図書室資料は「霊長類学に関する文献を網羅する」という方針に基づき収集されています。「霊長類学」という単独の分野があるわけではないため、動物学・生物学のみならず心理学・人類学・古生物学・医学・薬学・農学など収集分野は多岐に渡ります。蔵書数は、2018年12月末現在、図書28,509冊（洋書18,711冊、和書9,798冊）、雑誌約1,420種です。この他に「霊長類学別刷コレクション」約85,000点を所蔵しています。

特色は、別刷コレクション

所蔵資料の中で最も特色のあるものは、世界中の研究者に直接寄贈依頼して、1977年からおよそ30年にわたって収集し続けた、霊長類関連論文の別刷コレクションです。依頼していないものまでも送っていただけることが多く、論文にとどまらず、市販されない、今となっては入手困難な調査報告書なども多数受けいれることができ、貴重な財産となっています。

別刷コレクションは霊長類研究所ホームページで公開している「霊長類学文献索引データベース」で検索できます。このデータベースは、霊長類関連文献の書誌データベースとして活用していただくこともできます。

「霊長類学文献索引データベース」
http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/library/books.cgi

電子ジャーナルの普及に伴い別刷自体が作成されなくなってきたため、2010年度より積極的な収集は中止し、資料保存を目的としてこれまでの別刷を電子化する作業に移行しています。

別刷コレクション

書庫

専門雑誌ラック

共同利用・共同研究拠点

図書室は、所員に限って24時間自由に利用可能となっています。他部局の方が来室利用されることはあまりありませんが、霊長類研究所は共同利用・共同研究拠点ですので、全国からいらっしゃる共同利用研究員には所員とほぼ同等の図書館サービスを提供しています。また、長期、短期に滞在される外国の研究者の方も多く利用されています。

便利になった図書館間サービス

京都大学の他のキャンパスからかなり離れた立地のため、通常は他大学と行っている図書館間の複写・貸借サービスを、学内の図書館間であっても利用することになります。かつては学内の図書館間のサービスは非常に遅れており、学外とのやり取りの方がはるかに早くて便利という状態が長く続きました。その解消に向けて1998年度に理学部動物学教室図書室（現・生物科学専攻図書室）と独自に相互貸借を開始し、その後、少しずつ相互貸借可能な図書室を増やしていきました。2006年度には図書館機構の事業として学内デリバリーサービスが正式運用され、利用者の送料負担なしで、ほとんどの図書室と相互貸借可能となりました。また、2013年度には学内の文献をPDFで受け取れるEDDSも開始され、文献複写物の送付日数が大幅に短縮されました。この二つのサービスにより、こちらの図書室にしかない資料も他のキャンパスからスムーズに取り寄せて頂けます。

他部局の方には馴染みの薄い図書室ですが、機会があればどうぞご利用ください。

図書室入り口

<開室時間>　平日　9:00～17:00
<休室日>　土日祝日・創立記念日（6/18）・年末年始（12/29～1/3）・夏季一斉休業日
<貸出冊数>　所外の学内の方：図書：冊数制限なし／2週間
（但し、直接貸出不可。学内デリバリーサービス利用に限る）

univ. CO-OP

教職員情報

NO.147（225）
2019年3月15日号
京都大学生活協同組合

ホームページアドレス　http://www.s-coop.net

特別号
一路順風

残しておきたいキャンパス風景　第十二回
「霊長類研究所」

（学内の残したい風景　募集します）

霊長類研究所

京都大学霊長類研究所は、霊長類に関する総合的研究を行う目的で
1967年6月1日、京都大学に設置された附置研究所です。
霊長類学の総合的研究を専門とする拠点としては国内唯一で、愛知県犬山市官林にあります。

出資金返還・組合員資格更新のご案内

京都大学を離れられる組合員の方は、京大生協の脱退手続きが必要です。

お預かりしている出資金を返金いたします。

引き続き当生協の利用を希望される場合、「退職教職員」として組合員資格を継続することが可能です。　（当生協約款第6条に基く）

階層変更手続きが必要です。手続きは各購買店舗にて承ります。生協組合員証（組合員証番号がわかるもの）をご持参ください。

西部会館ルネ（外線）（内線）
吉田ショップ　752-1587　7632
北部購買　753-7633　7633
南部生協会館　752-1586　7635
時計台生協ショップ・時計台旅行センター　753-7630　7630　771-6289　7639
宇治生協会館　0774-38-4388　17-4388
桂ショップ　383-7300　15-7300
ブックセンタールネ　771-7336　7631
洋書　751-6183　7631
PCセンタールネ　753-7636　7636
コンベンションサービスセンター　753-7655　7655